

会 議 録

(6-1)

会議の名称		令和7年度 第2回 春日部市地域福祉計画審議会			
開催日時		令和7年11月21日(金)	開 会	午前 (午後)	1時30分
			閉 会	午前 (午後)	2時47分
開催場所		春日部市役所本庁舎 2階 201・202会議室			
議長(会長等)氏名		小川 孔美			
出席者	委員氏名	(出席人数：12人) 小川 孔美、鈴木 敏仁、原澤 正崇、岡本 文雄、竹内 和子、 竹田 広樹、中村 高子、新楽 悦子、西片 麻美、飯田 朋宏、 益子 美智子、柳橋 春子			
	説明者 その他	(出席人数：1人) 福祉総務課福祉総務担当主幹 伊林 圭			
	事務局	(出席人数：7人) 福祉部長 戸張 昌代 福祉部次長兼福祉総務課長 高橋 浩一 福祉総務課福祉総務担当主幹 川口 英典 福祉総務課福祉総務担当主幹 伊林 圭 福祉総務課福祉総務担当主査 福嶋 佑介 福祉総務課福祉総務担当主任 西山 ゆかり 福祉総務課福祉総務担当主任 田村 規子			
次第及び公開・一部公開・非公開の区分		次第 1 開 会 2 委嘱状交付 3 議 事 令和6年度春日部市地域福祉計画の進捗状況の報告と評価について 4 その他 5 閉 会 公開区分：公開			
一部公開・非公開の場合はその理由		☐ 要綱第3条第1号該当： ☐ 要綱第3条第2号該当： ☐ 要綱第3条第3号該当： ☐ 要綱第3条第4号該当：			
配布資料		令和7年度第2回春日部市地域福祉計画審議会会議次第 春日部市地域福祉計画審議会委員名簿 春日部市地域福祉計画 令和6年度 事業別目標シート(資料1) 事業別目標シートの評価方法について(資料2) 総合評価シートの計算方法について(資料3) 令和6年度 春日部市地域福祉計画 総合評価シート(資料4) 令和6年度春日部市地域福祉計画 総合評価シート【公表用】(資料5) 春日部市地域福祉計画 令和6年度事業別目標シートの見直しについて(資料6) 令和7年度第2回春日部市地域福祉計画審議会に係る事前質問一覧(資料7)			

会議録の作成方法	☐ 録音テープ等を使用した全文記録
	☒ 録音テープ等を使用した要点記録
	☐ 要点記録
会議録署名の指定	会長による署名

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	【 1 開 会】
事務局	【 2 委嘱状交付】
事務局	【 3 議 事】
議 長	令和6年度春日部市地域福祉計画の進捗状況の報告と評価及び第2回審議会開催の経緯について、事務局より説明をお願いいたします。
事務局	《進捗状況と評価及び第2回審議会開催の経緯について説明》
議 長	ただ今の説明につきまして、質疑応答の時間に入ります。まず、委員より事前質問がございましたので、そちらに対して事業担当課より回答していただきたいと思います。それでは事務局より、事前質問について説明をお願いいたします。
事務局	それでは、委員の方より事前にいただいた質問事項について、事業ごとに確認をさせていただきます。まず、事業コード1-2-3「市民参加の機会の提供」に対する質問として、「評価理由欄の「7の市民参加手続きに対し・・・」の7とはどの部分を指すのか？」とのご質問です。なお、郵送した資料では、7では無く、⑦という表記になっておりましたが、こちらは我々が作成した資料における誤植でしたので、訂正させていただきます。それでは、市民参加推進課様説明をお願いいたします。
市民参加推進課	令和6年度に実施された市民参加手続きのうち、市民意見提出手続き、いわゆるパブリックコメントの実施件数が7件であったということでございます。なお、実施いたしましたパブリックコメントのうち5件につきましては、市民の方からご意見をいただくことができたが、残り2件につきましてはご意見は1件もいただけなかったということで、実績値を71.4%としたものでございます。説明は以上でございます。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	次に、事業コード1-2-8「三世代交流事業」に対する質問として、「現状値（R5年度）6,738人を、目標値（R6年度）2,550人に大きく下げた理由はなにか。」とのご質問です。高齢者支援課様説明をお願いいたします。
高齢者支援課	この三世代交流事業につきましては、本市の最上位計画であります総合振興計画の実施計画におきましても同じ目標値を定めておりまして、こちらの総合振興計画の目標値では、令和5年度が2,500人、令和6年度が2,550人、令和7年度が2,600人、令和8年度が2,650人、令和9年度が2,700人という目標値を設定しております。この総合振興計画策定時の令和4年当時は、コロナ禍の最中でありまして、三世代交流の参加者数は令和3年度の現状値で2,138人であったため、目標値の設定が今申し上げたように低めの設定になっております。計画ごとに目標値が異なると整合性を欠いてしまうため、地域福祉計画の目標値も最上位計画である総合振興計画の目標値に合わせる必要があったものでございます。その後、コロナが5類に移行しまして、活動自粛がなくなったため、令和5年度の参加者数は6,738人と大幅に参加者数が増加いたしました。この実績が地域福祉計画の現状値となっているため、コロナ期に設定された目標値と乖離してしまっているという形でございます。
事務局	次に、事業コード1-2-11「児童館運営事業」に対する質問として、「児童センター利用者の満足度はどのように把握しているのか。」とのご質問です。こども育成課様説明をお願いいたします。
こども育成課	児童センターは各館の指定管理者が年2回、9月と2月にアンケートを実施しているところでございます。アンケートの内容といたしましては4項目で、①施設のきれいさはどうか②職員スタッフの接客対応はどうか③施設で行われる講座イベントの内容はどうか④備え付けのおもちゃ備品などの種類数はどうかです。小学生100名と中高保護者100名に対して、各館で行っている状況でございます。以上です。
事務局	次に、事業コード1-2-12「かすかべ郷土かるた大会」に対する質問で、「修正前の実績値に比し、大きく変更になっている理由はなにか。」とのご質問です。こども育成課様説明をお願いいたします。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
こども育成課	修正前の実績値に対して大きく変更になっている理由でございますが、修正前は75%でございまして、修正後は83%となっております。これにつきましては、目標値を令和6年度の目標値の90%と設定していたため、90%を上限として百分率に換算した数字に変換したことによりまして、その分が上昇したという形となっております。以上です。
事務局	次に、事業コード1-2-15「放課後子ども教室推進事業」に対する質問で、「令和7年度の目標値をお教えてください。」とのご質問です。こども育成課様説明をお願いいたします。
こども育成課	令和7年度の目標値につきましては、参加児童数の延べ人数5,500人としているところでございます。令和5年度の実績が3,803人、令和6年度が4,987人となっており、上昇傾向でありましたことから5,500人と設定させていただいたところでございます。以上です。
事務局	次に、事業コード1-3-7「手話通訳養成講座」に対する質問として、「手話通訳養成講座は開催できていないのか。」とのご質問です。障がい者支援課様説明をお願いいたします。
障がい者支援課	手話通訳養成講座を開催できていないのかというご質問でございますが、そもそも令和6年度は実施の予定がございませんでした。手話講座は全部で5コースあり、レベルごとに構成されていて、受講者の方が順にレベルアップをして、講座を受講していくという形となっております。受講者数や講師数の関係などから、通訳者養成コースは毎年度の開催はしておりません。直近では令和5年度に開催しておりまして、その次が令和7年度の開催となっております。以上です。
事務局	次に、事業コード1-4-6「ボランティアセンター運営事業」に対する質問で、「質的評価事業ではあるが、ボランティア相談や居場所づくりへの対応、広報誌の発行等をできているのに評価「B」の理由はなにか。1-4-7事業と比較しても評価結果の理由が不明。」とのご質問です。社会福祉協議会様説明をお願いいたします。
社会福祉協議会	こちらにつきましては、相談支援やボランティア活動等の拠点としてのセンターの貸し出しや、居場所づくり等の活動をしております。一つの評価とし

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
	て、ボランティア活動や居場所などの拠点としての貸出件数が、令和5年度は345件、令和6年度は369件と増加していたところですが、使用人数が令和5年度が1,101名、令和6年度が969名ということで、働きかけが不十分であったと認識しており、B評価としております。なお、参考までにボランティアセンターという事業につきましては、ボランティア相談件数が251件から321件に増加しているところでございます。また、それ以外に夏休みに学生さん向けに市内の多くの団体さんのご協力をいただいて、ボランティア体験プログラムというものをしております。そちらにつきましては、36名から50名に増加、そしてボランティア活動推進連絡会さんのご協力をいただいて、ボランティアフェスティバルという啓発イベントをさせていただいております。そういった中で266名から337名に増加しております。他にもボランティア啓発イベント等を開催しており、参加者数も充実が図れていたところから、こちらにつきましてはA評価とさせていただいているところでございます。説明は以上です。
事務局	次に、事業コード3-1-13「地域子育て支援センター事業」に対する質問として、「子育て相談と親同士の交流会の開催を通じた子育て支援事業であるが、評価結果欄を見ると、情報交換会（交流会）の開催ができていないに評価「B」の理由はなにか。」とのご質問です。保育課様説明をお願いいたします。
保育課	毎年実施しております情報交換会について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年1回しか開催できない時期もございましたが、ここ数年は年度の上半期、下半期と年2回の開催を継続してまいりました。近年、核家族化の進行や少子化の影響によりまして、子育て中の保護者の方の悩みは多様化・複雑化しております。このため、情報交換会の開催回数を増やすべきと考え、具体的な記載はございませんが、昨年度の令和6年度につきましては、年3回以上の開催を目標としていたところでございます。しかしながら、例年ではない計画であったことから、参加者のスケジュール確保等が難しい状況がございまして、結果として9月と1月の例年通りの2回の開催にとどまったところでございます。これを受けまして、評価をBとしました。今年度につきましては、従来通りの年2回の開催とし、内容の充実化を図ってまいりたいと考えております。今後も実態に即した運用を継続し、情報交換会は保護者の皆様のニーズに的確に応え、地域の子育て環境の向上につながるよう取り組んでまいります。以上でございます。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	次に、事業コード4-3-5「避難行動要支援者避難支援制度」に対する質問で、「自治会数の分母の記述が無いので、評価「C」の結果が適当か不明。」とのご質問です。危機管理防災課様説明をお願いいたします。
危機管理防災課	自治会数の分母につきましては、春日部市自治会連合会の自治会数は198自治会となります。令和6年度の実績が27自治会で、割合としては約14%だったため、評価をCとさせていただきます。説明は以上となります。
事務局	次に、事業コード4-4-1「居宅改善整備費の補助」に対する質問で「質的評価事業であるが、評価「A」の理由について。」とのご質問です。高齢者支援課様説明をお願いいたします。
高齢者支援課	通常、高齢者の方が住宅に手すりを設置したり、床の段差を解消したりといった住宅の改修につきましては、多くの場合、介護保険サービスを利用した住宅改修が一般的であるということが前提としてございます。一方、当課で実施しております居宅改善整備費の補助につきましては、要介護に該当しない方を対象としており、かつ高齢者のみの世帯であり、世帯員全員が非課税世帯であることを要件としております。したがって、本事業は介護保険サービスの適用を受けられない方に対する救済措置であり、介護保険の補助的な位置づけの事業でございます。したがって、当該事業は補助金額や申請数で一概に評価することはできず、真に困っている方がいた時に支援できる体制を整えられていることをもって評価することとしております。よって、令和6年度の交付実績はなかったものの、支援体制は整えられていたことから、A評価としています。説明は以上です。
事務局	次に、事業コード4-4-4「住宅改修費の助成」に対する質問で、「修正前シートとの比較で、令和6年度実績欄の書きぶりが大きく異なっている。この理由はなにか。」とのご質問です。障がい者支援課様説明をお願いいたします。
障がい者支援課	こちらは目標シート作成の際、不手際により、4-4-5と同じ内容で作成をしておりましたため、内容の訂正をさせていただいたものでございます。以上です。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	次に、事業コード4-4-5「重度身体障害者居宅改修整備費の助成」に対する質問で、「令和6年の実績欄「支援体制を整えました」とはどういう意味なのか。」とのご質問です。障がい者支援課様説明をお願いいたします。
障がい者支援課	「支援体制を整えました」という部分についてでございますが、こちらにつきましては必要な予算を確保いたしまして、複数件の申請があった場合においても、支払いに即座に対応できる状況を整えていたという意味合いでございます。なお、重度心身障害者居宅改修整備費でございますけれども、近年申請自体も少なくなっておりまして、令和3年は2件、令和4年は0件、令和5年は1件、令和6年は0件という件数でございましたが、ご申請をいただいた際には即座に対応ができるよう整えていたというところであります。以上でございます。
事務局	次に、事業コード4-4-6「市営住宅における居住空間の整備の推進」に対する質問で、「評価「D」の理由について。」とのご質問です。住宅政策課様説明をお願いいたします。
住宅政策課	入居者様がいらっしゃる状態での改修工事等は難しく、退去したタイミングで行っているという状況がございます。6年度につきましては、退去者の方がいらっしゃらなかったため改修ができず、D評価としました。説明は以上でございます。
事務局	次に、事業コード4-4-7「市営住宅のバリアフリー化と優遇入居の実施」に対する質問で、「評価「D」の理由について。」とのご質問です。住宅政策課様説明をお願いいたします。
住宅政策課	こちらにつきましても、評価の指標が4-4-6と同じものであるため、すでに述べたとおりとなります。以上です。
議長	事前質問は以上となります。委員の皆さまから、他にご質問等ありますでしょうか。
委員	確認事項がいくつかございます。まず、事業コード1-2-3 について、⑦ではなく7であるご説明がありましたが、当日資料にも同様の記載がありますが、こちら誤植ということでしょうか？

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	ご認識のとおりです。
委員	続きまして、事業コード 1-2-8 について、目標値を大きく下げた理由は、総合振興計画と数値を合わせたためとのご説明がありましたが、現状値に合わせた目標値の再設定が必要ではないかと感じました。次に、事業コード 1-3-7 については、それぞれのコースの参加者数を教えていただければと思います。次に、事業コード 3-1-13 について、質的評価事業から量的評価事業に変更すべきではないかと感じました。次に、事業コード 4-3-5 について、分母の数が 198 自治会ということであれば、評価は C ではなく D ではないかと思いました。次に事業コード 4-4-4 について、支援体制を整えたというだけで A 評価とするのは難しいかなと委員としては感じました。次に 事業コード 4-4-5 において、申請がなかったのであれば、見直しが必要な事業なんだろうと感じます。 よって継続事業ではないと思いました。最後に、事業コード 4-4-6 について、退去者がいなかったとのご説明があり、量的評価事業ではなく質的評価事業に該当するのではないかと感じました。以上です。
議長	委員からのご質問に対し、各事業担当者よりご説明をお願いいたします。 まず事業コード 1-2-8 について、高齢者支援課様お願いいたします。
高齢者支援課	現状値に合わせた目標値が必要とのご意見でございますが、 おっしゃるとおり乖離がありますので、市民としても疑問に思われるところかと思えます。一方で、先ほど説明で申し上げたとおり、総合振興計画における目標値との整合性もございますので、この点につきましては、事務局である福祉総務課と検討していきたいと考えております。
議長	次に事業コード 1-3-7 について、障がい者支援課様お願いいたします。
障がい者支援課	令和 5 年度に開催したコースは、レベルアップコースと手話通訳者養成コースで、レベルアップコースの受講者数は 8 名、手話通訳者養成コースの受講者数は 4 名となっております。 続いて、令和 6 年度に行いましたコースが、入門コースと中級コースとなります。 受講者数は入門コースが 24 名、中級コースが 7 名という人数の内訳です。 以上です。
議長	次に事業コード 3-1-13 について、保育課様お願いいたします。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
保育課	委員がご指摘されたように、情報交換会の実施状況をもって評価する旨、シートに記載がございますので、実施の目標を見直し、質的から量的に変更することも含め、今後、事務局と検討していきたいと思います。以上です。
議長	次に事業コード4-3-5について、危機管理防災課様お願いいたします。
危機管理防災課	委員がご指摘されたように、D評価が適当だと感じてはおります。 以上です。
議長	次に事業コード4-4-4について、障がい者支援課様お願いいたします。
障がい者支援課	こちらの事業につきましては、日常生活用具給付事業という福祉の法律上必須となる事業です。 障害をお持ちでかつ介護保険に該当される方ですと、介護保険制度をお使いになりますので、本事業は、それを補完するような意味合いもございます。 よって、PRして申請を促すというよりは、補完的なものとして必要な方がいらっしゃるときに即座にサポートできるという体制が必要であろうというところで、当課が判断した評価でございます。 4-4-5についても同様で、見直しは考えておりません。以上です。
議長	次に事業コード4-4-6について、住宅政策課様お願いいたします。
住宅政策課	こちらにつきましては、今後、事務局と検討をさせていただきたいと思っております。 なお、4-4-7も指標が同一なので、こちらも含めて検討させていただきたいと思います。 以上です。
	《以上で質疑を終了し、進捗評価とその公表について承認》
事務局	【4 その他】 本日、報告についてご 承認いただけたということで、令和7年度の審議会につきましては、臨時の議題等が生じない限り、今回で終了となります。
	【5 閉 会】

議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 7 年 12 月 15 日

署名者の職・氏名 春日部市地域福祉計画審議会 会長

小川 孔美

